

NOMADIC GALLERY

GROUP EXHIBITION

2024年5月31日(金) - 2024年6月9日(日) 14:00 - 21:00

” Overflowing Colors “

—— 5人のアーティストによる 色彩の improvisation ——

異なるモチーフ・メディアを用いて芸術的創作活動を行う5人のアーティストたちが、「溢れ出す色彩」というテーマのもと、表現し、共鳴させ、相互変化を誘発する

この建物はまもなく解体される

そしてまた、新たな空間が新たな時間を刻むことになる

この瞬間、この空間でしか生まれない色彩の即興

是非、ご体感ください

ARTISTS :

GEORGE HAYASHI

YOH NAGAO

ITOSHI SAKHRANI

HOKUTO ICHIBAYASHI

Takapincipal

NOMADIC GALLERY



@NOMADIC_GALLERY24

協賛/協力

TRIAD

COZUCHI



GEORGE HAYASHI

1978年東京生まれ、幼少期から独学で絵を描き始める。「NOMAD HEART／自由な心臓」をスピリットに、自然が持つ本能やエネルギー、野生動物の強さや生き方に影響され表現している。2010年から活動拠点を上海に置き、中国国内外の画廊や美術館で展覧会を開催。飲料水ブランド「チェリオ」、高級美容機器ブランド「ARTISTIC&CO」など企業コラボレーション多数。在上海日本国総領事館や在台湾日本領事公邸等に作品が収蔵され、マカオのカジノホテルや「SPEAK LOW」(中国・上海)スポーツブランド「NIKE」SG CLUB、糸すじ郎、SG TAVERN(以上、東京)、El Lequio(沖縄)、Sip&Guzzle NYC(NY)等の店舗の壁画を手がけるなど特にアジア圏で高い評価を獲得、多岐に渡る活動を展開している。



「ENCOUNTER01」

EXHIBITION

- 2023 「SURE SHOT」 YUGEN Gallery Tokyo
- 2022 「COSMIC DUAL FORCES」 YUGEN Gallery Tokyo
- 2022 「ART TAIPEI 2022」 台北國際藝術博覽會/熏依社画廊 Shun Art Gallery
- 2021 「Color of Riddim」 Shun Art Gallery Tokyo
- 2019 「ANIMALISM (動物主義)」 Shun Art Gallery (熏依社画廊) Shanghai
- 2018 「聲色交匯 藝筑精彩」 Mayfair Foshan China

INSTALLATION

- 2024 「SG TAVERN」 Marunouchi Tokyo
- 2023 「Sip&Guzzle」 NYC NewYork U, S, A
- 2022 「EL lequio」 Naha Okinawa
- 2021 「糸すじ郎 / SG LOW」 Shibuya Tokyo
- 2020 「Art Hotel Kokura New Tagawa」 Kokura Fukuoka
- 2019 「在台湾日本国総領事館公邸」 Taipei Taiwan
- 2018 「The SG Club」 Shibuya Tokyo
- 2015 「YOKOITERUKO FUJI MUSEUM」 Fuji Shizuoka
- 2014 「Speak Low /彼楼」 Shanghai China
- 2014 「在上海日本国総領事館本館」 Shanghai China
- 2011 「Fortuna Casino Hotel / 澳門財神酒店」 Macau China

—その他多数—

YOH NAGAO

1981 年神奈川県横浜市出身。名古屋造形大学視覚伝達コミュニケーション科卒業。グラフィックデザイナー、イラストレーターとして働きながらアーティストを志し、2012 年ドイツ・ベルリンに拠点を移す。以後、ニューヨーク、ロサンゼルス、パリ、ベルリン、ロンドン、メキシコシティで作品を発表。そのなかで民族学や文化人類学にも関心を持ち、国立民族学博物館教授・鈴木紀氏や米アリゾナ州立大学研究教授・鈴木三郎氏に教を請いながら、ナミビアで先住民的な生活を送る人達のコミュニティに入り込むなどフィールドワークを重視。他にもメキシコ、モンゴル、インドを旅して得た知見を作品に落とし込んでいる。そうした成果の現在地として全長 100m を越える三重県南伊勢町神前（かみさき）浦の防波堤の壁画「調和と教え」がある。現在、愛知県名古屋市を拠点に活動。

[Artist Statement]

あらゆるものが情報化、数値化されてしまう現代社会において、私たちが長らく崇めてきた有形無形の文化や美意識、偶像などが社会の端へと追いやられてはいないだろうか？それらをなくして次の 100 年も私たちは私たちでいれるだろうか？という問いを、ドイツを拠点としていた頃から自身のルーツも含め、人類、民族の行方を憂慮している長尾は”僕らは未来の先住民”をテーマに、現代人にむけて温故知新や本能回帰を促しつつ現代社会が抱える矛盾などを作品を通じて投げかけています。



「山に伏せる者 II」

EXHIBITION

- 2023 個展 「Wild Thought」 日本・YUGEN Gallery
アートフェア「Affordable」 アメリカ・New York
- 2022 個展 「COLLECTING AINU」 スイス・LECHBINSKA ART Gallery
個展 「VACANCIES」 日本・YUGEN Gallery
- 2021 個展 「Ceramicman」 日本・新町ビルディング
- 2020 個展 「YO SOY TŪ」 日本・THE AIR BUILDING
- 2019 個展 「GENEALOGY」 アメリカ・Mirus Gallery
- 2018 グループ展 「GRAND OPENING OF MIRUS GALLERY IN DENVER」 アメリカ・Mirus Gallery
グループ展 「FANTASTIC WORLD」 アメリカ・GR Gallery

- 2017 「No Commission」 Bacardi+The Dean Collection ドイツ
- 2016 グループ展 「50 Contemporary Artists」 ドイツ・ENTER ART FOUNDATION
- 2015 アートフェア 「LA ART SHOW」 アメリカ
グループ展 「DREAMLANDS」 アメリカ・CHG Circa
- 2014 個展 「Detour Through Wonderland」 ドイツ
- 2013 アートフェア Art Fair ULTRA 006 日本
グループ展 「Birth of Cool」 ドイツ・The Ballery
アートフェア 「SCOPE art show in Miami Beach」 アメリカ
- 2012 「ARTAQ URBAN ARTS AWARDS」 フランス・パリ
- 2011 「Pick Me Up contemporary graphic art fair」 イギリス・Somerset house
「ARTAQ URBAN ARTS AWARDS」 フランス・アンジェ
- 2010 グループ展 「ism 2010」 日本・tambourin-gallery
- 2009 個展 「JOURNEY」 香港・ Gallery Benten 17
「Fountain Miam Art fair」 アメリカ
- 2008 グループ展 「WONDERLAND art for all」 香港・ Gallery Benten 17
- 2007 グループ展 「WE-ARE -FAMILIA」 フランス・コレット

ITOSHI SAKHRANI

1987年に東京都生まれ、油絵を愛する父の影響で幼少期から絵画に親しむ。イギリス、インド、沖縄のミックスであり、異文化に触れるインターナショナルスクールと日本の公立学校で教育を受ける。卒業後は、レンタカーショップ、金融、バーテンダー、新聞配達、タクシードライバーなど様々な職歴を経て、2020年から画家として活動を開始。すべての人に物語があるように、ものや自然にも物語がある。それらは互いに影響し合い、変化していく。私の作品は、シンプルな幾何学的形状、自然の有機的要素、ナイフのストローク、スプラッシュなど、画面上に静と動を同時に共存させ、様々な物語が変化していく環境を視覚的に表現している。



「2024. No. 6」

EXHIBITION

- 2024 個展「回転する胎児の夢 1.2」 YAD+wall Show window exhibition
- 2023 グループ展「geometric」 DDDART
- 2023 グループ展「Hello +ART Shibuya Tokyu Plaza」 +ART GALLERY
- 2023 個展「生活」 YUGEN Gallery
- 2023 個展「Parade」 YAD+ wall Show window exhibition
- 2023 グループ展「Born New Art Vol.3」 +ART GALLERY
- 2023 グループ展「BITS AND PIECES」 DRELLA
- 2022 個展「ITOSHI SAKHRANI x KINKO' S」 Kinko' s Shibuya
- 2022 グループ展「Vulnerability」 +ART GALLERY
- 2022 グループ展「Street Merges Art」 TRiCERA Museum
- 2022 グループ展「Unplugged」 TRiCERA Museum
- 2021 個展「Three Seasons and Night」 NICK WHITE TOKYO
- 2021 個展「ITOSHI SAKHRANI 展」 PR BAR

HOKUTO ICHIBAYASHI

1992 年生まれ。石川県出身。京都精華大学日本画専攻卒業。大学で学んだ天然物を扱うことに重きを置いた日本画の媒体から分派し、蛍光色等より一層人工的なマテリアル（アクリル絵の具等）を用いて自分の色で表現することにスタイルチェンジした。直に観た自然物より、小さい頃から慣れ親しんだTVやPCの綺麗な液晶で観る自然物の画像に美しさを感じ、高度成長期を経て人工的なものにまみれた現世は、自分のデジタル移行のこの時代に生まれた人々のジクスの様に思え、この画材（媒体）の変更に至った。その後、メインモチーフに描くものも花鳥風月から人工的なものに徐々に移行させる事により、近年は、社会的なもの、歴史的なものに風刺を匂わせた作品が多い。特に自分が幼少期に慣れ親しんだゲームのニュアンスを含ませた俯瞰的な画面や横スクロール等（歪んだ遠近感）は元来古典絵画から着想を得たものと考え、結果的に古典的な歴史的絵画等から関心を得たものであると考える）を織り交ぜた作品が主体となっている。



「Pressure」

EXHIBITION／INSTALLATION

- 2024 グループ展「Room#81」 Vinyl Tape Kyoto
- 2024 個展「The fragment like a puzzle like a puzzle」 Mat
- 2023 個展「Hidden things」 YUGEN Gallery Tokyo
- 2023 アートフェア「Art Taipei」 Marco Gallery
- 2023 アートフェア「AAF NYC 2023」 100°C Gallery
- 2023 グループ展「Parco Osaka exhibition」 Parco Osaka
- 2023 アートフェア「AAF HK 2023」 Ztory Teller
- 2023 グループ展「Freestyle Asians」 YUGEN Gallery Tokyo
- 2023 アートフェア「One Art Taipei2023」 Marco Gallery
- 2022+2023 アートワーク提供／Tokyo Comicon DC comics
- 2022 アートフェア「Art Taipei」 Marco Gallery
- 2022 Microsoft Japan / 壁面アートワーク
- 2022 グループ展「Allegory of them」 Marco Gallery
- 2022 アートワーク提供／ドバイ万博・日本館
- 2021 アートフェア「Art Taipei」 Marco Gallery
- 2021 ゴルフブランド Russeruno / 店舗壁画

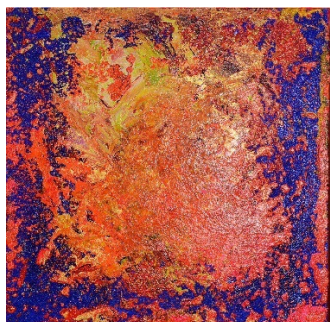
2021 グループ展「Everything but…」 Terrada Art Complex II
2020+2021 個展「outer world」 Marco Gallery、The blank gallery
2022 グループ展「Input/Output」 銀座蔦屋書店
2019+2020 個展「The tower」 京都藤井大丸、ダイトカイ
2019 LOSTAGE & bacho / スプリットアルバム ジャケット
2019 Nike Osaka / 壁面アートワーク
2018 個展「Melee close in」 Anagra
2018 グループ展「Epic painters vol.4」 The blank gallery
2017 個展「Fighter」 argument gallery
2017 個展「Weird and wonderful」 FALO

Takapincipal

1974年愛知県出身。9歳から写真を始め、30年以上にわたり雑誌や広告などのクリエイティブな仕事に携わっています。写真家として活動し、自然界の写真を撮影する際にさまざまなアプローチを試行し、ニューヨーク、ロンドン、香港、東京など国内外で展示を繰り返してきました。経験を芸術に転換する過程で、その場で感じた感覚を伝える難しさに直面しました。自然の周波数と自己の周波数に共鳴する表現を探求し、エナジー的要素を取り入れることで芸術的解釈を進化させ、自然の本質に迫る方法を見出しました。感覚的な表現を重視し、言葉よりも迅速に伝わる五感の組み合わせで観る人を魅了する創作活動を展開しています。2024年2月に、現代アートの作家として新たな挑戦を始めました。

[Artist Statement]

都会のエナジーを可視化することをテーマに、アーティストとして活動しています。過去30年間で、デジタル化の進展やSNS、AIの普及、交通機関の発展など、表現環境は大きく変化してきました。これらの変化によって2つのアプローチに辿り着きました。写真を素材として現代アートに昇華させるミクストメディア的アプローチと、色やテクスチャだけでエネルギーやフリークエンシーを表現する抽象画です。自己の根底にある関心は、コピー&ペーストが多用される時代において、現代のフィジカルなアナログ表現の本質を追求すると同時に、現代のエナジーを取り入れた自身の作品が1000年後に発掘された時、人々に衝撃、感動を与えられる事を目指し活動しています。



「Paradise Bomb」

Exhibition

- 2023 「Lumine Group Exhibition」 Tokyo
- 2023 「Isetan Group Exhibition」 Tokyo
- 2021 「W Frequency」 Lumine Tokyo
- 2020 「W Frequency」 Telc Tokyo
- 2017 「Solo」 Shanghai
- 2014 「Contour」 Hong Kong
- 2011 「EXPO TAKA」 Paris
- 2009 「Vital」 hpgro Tokyo
- 2008 「In between」 hpgrp Tokyo
- 2007 「Rooms」 door Tokyo
- 2006 「Atmosphere」 walls Tokyo
- 2002 「Mute」 Tokyo
- 1997/1996/1995 CAVE New York